


研究者総覧：俵山 雄司 (TAWARAYAMA, Yuji)

氏名	俵山雄司 (TAWARAYAMA, Yuji)	
職名	准教授	
所属講座	日本語文化専攻日本語教育方法論講座	
学位（専攻分野）	博士（言語学）・筑波大学	
メールアドレス	ytawara@iee.nagoya-u.ac.jp	
学位（専攻分野）	博士（言語学）・筑波大学	
個人のホームページ	http://jp.ilc.iee.nagoyau.ac.jp/ja/about/staff/tawarayama.html	
研究分野	日本語教育	
	日本語学	
現在の研究テーマ	談話分析（特に、談話構造に関する接続詞）	
	言語運用に対する評価	
	実践研究	
所属学会	日本語教育学会	
	日本語文法学会	
	専門日本語教育学会	
主要著書・論文	「談話終結部における文のタイプ」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』（くろしお出版），265-283, 2015	
	「講義における専門用語の説明に対する日本語学習者の評価・わかりやすい説明の方法を探るために・」『専門日本語教育研究』15号, 27-34, 2013	
	「「このように」の意味と用法・談話をまとめる機能に着目して・」『日本語文法』7巻2号, 205-221, 2007	
	「「こうして」の意味と用法--談話を終結させる機能に着目して」『日本語教育論集』（国立国語研究所発行）22号, 49-57, 2006	
自己紹介文	<p>学部・修士課程・博士課程と筑波大学で、日本語教育や日本語学について学んできました。本格的に日本語を教え始めたのは、2002年に中国北京市の大学においてでした。それ以降、ずっと日本語教育に携わり、日本語教育に関わる研究を続けています。</p> <p>私の研究は、すべてが日本語教育の現場で感じた疑問点や、うまく解決できなかった点などをきっかけとして始めたものです。具体的には、作文の添削過程における疑問点から「談話構造に関与する接続詞」の研究が生まれました。その後、私の興味は、「談</p>	

	<p>話の終結に關与する表現」に広がり、2015年3月には博士学位論文としてまとめることができました。そして、国立大学の理工系学部での仕事（日本語力の十分でない留学生向けの専門科目やビジネス知識の講義のアレンジ）からは、「専門講義における留学生にとってわかりやすい説明」についての研究の着想を得ました。その他にも、その時々担当したクラスでの教育方法の改善も、実践報告として発表しています。</p> <p>このような研究を行うことで、自分の教育実践の改善や深化につなげていくことはもちろんですが、さらに進んで、多くの学習者や教師が「幸せ」になるような研究をできたらと思っています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>研究をする上でのマナーとして、先人への敬意を持つことが必要だと思っています。具体的には、先行研究を読み、書かれた時代や状況を踏まえたうえで、その良いところと限界を把握することです。しかし、このように「先行研究を読む」ことは容易ではありません。ある程度の予備知識がいるからです。予備知識を仕入れるためには、概説書を読んだり、講義を受けたりする方法があります。また、一方で、似たようなテーマの論文を数多く読むことも大切です。関連した論文を読んでいるうちに、他との比較で良いところと限界が見えてくることもあるからです。</p> <p>受験生の方には、研究計画書を書く際には、十分に先行研究を調査して書かれることをお勧めします。そのようにして書くことで、入学後の学習と研究もよりスムーズに始められると思います。</p> <div data-bbox="906 779 1347 1032" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1007 1059 1238 1088">日本語の授業の後で</p>